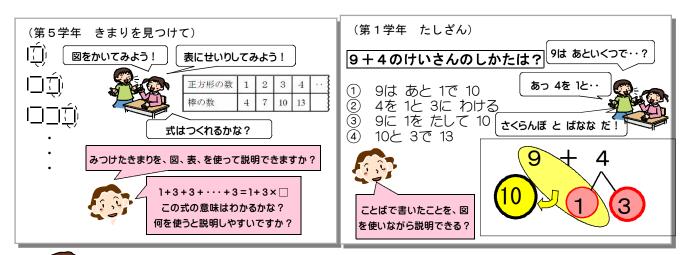
## <<u>等数>指導のポイント</u> 考えを「説明」させる指導はどうすればよいの? (その2)



## 何を用いて説明するとわかりやすいか

算数科の授業では、課題の解決場面で、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用います。式や言葉だけでは意味理解が不十分なことが、図や表などに表すことで、はっきりと理解できる場面が多くあります。

説明し伝え合うときも、言葉や数、式、図、表、グラフなどを「適切に用いる」ことで、相手によく伝わり、説明できたという自信が付き、説明する力が高まります。





言葉や数、式、図、表、グラフなどを、課題の解決のための思考の道具として 用いさせるとともに、説明の道具としても、用いさせることがポイントです。

## 聞き手を意識した表現へ

説明上手な子どもを育てるとともに、数学的な見方や考え方を育むためには、数学的な表現の仕方を身に付けさせることが大切です。

教師は子どもたちが思考しているときの言葉や、説明しているときに使う言葉、そしてノートに書いていることに気を付けることが大切です。

## 子どもに使わせたい表現・言葉の例

- 「まず~して、次に~します。そして最後に~します。」(方法・手順を説明している)
- 「~が~だから、~も」(類推的な考え方)
- 「Aのときは□で、Bのときも、Cのときも□だから、いつでも、・・」(一般化の考え方)
- 「もし~だったら」「もし、~が~だったら」(演繹的な考え方、理由を説明している)
- 「~だから、~です。」「だって、」「なぜかというと、」(理由・根拠を説明している)
- 「~と~の同じ所は、」「~と~の違う所は、」(比較・検討している)



発達段階に応じて、子どもが説明するときなどに使った数学的に価値ある表現を、 教師が取り上げて、あらためて価値付けて広げること。そして、その表現をほめてあ げることがポイントです。また、聞き手を意識して表現させることも大切です。